

地域の新名所 鏡谷はすまつりを成功させよう
～子ども野菜市 in 鏡谷はすまつりを通して～

松江市生馬公民館

1 生馬公民館の概要

生馬地区の拠点として昭和31年設立。平成6年移転新築。公民館周辺は、主に田園地帯である。地域の小学校、幼稚園、高専、養護学校、医療福祉センターがあり、学園タウンの観を呈している。地域の特色を生かし、ふれあいを大切に、心の豊かさを求め、住民の積極的な参加による活動を構築し、住みよい地域を目指した様々な事業を展開している。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

新たな地域のまつりにおける子どもたちの野菜市の開催を通して、地域のコミュニケーションの大切さに気づき、ふるまいの推進を図る。

(2) 具体的な取組

小学校6年生 参加希望者8名で事業に取り組む。

ア 6月23日 生馬公民館で子ども会議

野菜市の役割や分担を決め、スケジュールの確認などをする。

イ 6月30日 生馬地区内ハウスにて野菜仕入先の農家での研修

仕入れ先の農家に、野菜の育て方、苦労話、アピールすることなどを聞く。お客さんにどう呼びかけたら売れるだろうかなど、販売のPRの仕方を考えた。「試食販売をしたらいい。」「きゅうりの漬物のレシピを作ってお客さんに配ろう。」などのアイデアが出た。農家の方からも温かい応援とアドバイスの言葉をいただいた。

ウ 7月10日 生馬公民館で野菜市の看板、値札の作成

エ 7月19日 鏡谷はすまつりで野菜市 参加児童5名

反販売品目はきゅうり、トマト。初めは恥ずかしがって、なかなか声が出なかったが、すぐに慣れ、大きな声で元気にお客さんに声をかけ、試食品を持って歩き回り販売した。子どもたちのがんばりに隣のお店の人やお客さんからも温かい声をかけていただき、まつりの会場全体に思いやりの空気が広がった。

オ 8月4日 生馬公民館で反省会 6名参加

「お客さんがみんな笑顔だった。」「みんな野菜が好きだと感じた。」「完売できず残念だった。」「売るのも大変だと分かった。」などの感想があった。地域の方からも「子どもたちのがんばりに元気をもらった。」「私たちががんばらないとね。」といった声が聞かれた。

3 事業の成果と課題

(1) 成果

ア 地域の方に野菜作りの工夫や、苦労話を聞き、人生の先輩の人柄や温かさに触れることができた。また、児童が地域の方のアドバイスを基に、どうしたらよく売れるか販売方法を考えることが出来た。

イ 新しい地域のまつりの企画、子どもたちの野菜市出店により、若い世代をはじめとした地域の大人がお互いに声を掛け合ったり、助け合ったりする姿が見られた。特に野菜市に関しては、子どもたちのがんばりに対しての応援やアドバイスの声がたくさんかけられ、若い世代をはじめとした地域のふるまい向上への意識の高まりが感じられた。

ウ 「いらっしやいませ。」「ありがとうございます。」など積極的に声掛けをすることで、知らない人ともコミュニケーションを深めることができ、子どもたち自身もふるまいの大切さを実感することができた。

(2) 課題

児童の中には、習い事が多く全日程に参加できない児童がいた。特に、野菜市当日に試合が入り、参加できなかった児童は、熱心に準備してきただけに残念だった。今後は、社会体育との調整が必要である。

4 今後の取組等

今後は、児童が事前に販売へ至るまでの過程を事前学習し、仕入れからできるようにさせたい。また、地域の若者リーダーとの関わりも検討し、若い世代のふるまいの意識を高めていきたい。



農家での研修



はすまつりで野菜市当日